

くるはら

2017(平成29)年1月10日

第 52 号

発行 来原地区コミュニティ
づくり連絡協議会

編集 広 報 部



酉年の春を迎える飾り松



新年あいさつ

新しい年に原点にかえって

来原コ連協会長 平野 弘則



来原地域の皆様、明けましておめでとうございませう。お元気で新しい年をむかえられたこと、心よりおよろこび申し上げます。又、昨年は来原コ連協が呼びかけました安心して住める地域づくりに参加、ご協力いただき、深く感謝いたします。

さて、平成二十三年三月の東日本大震災以降、内閣府がまとめた社会意識に関する世論調査では、「社会における結びつきが大切だと思おうようになった」という回答が七十九・六％と示され、そのなかで「家族や親戚のつながり」が六十七・二％、「地域のつながり」五十九・六％、「社会全体の助け合い」四十六・六％（複数回答）と続き、人・地域のつながり、絆の重さと大切さが報告されています。

私たち来原コミュニティづくり連絡協議会も、昭和五十三年九月発足以来、三十八年住民自治活動で地域の活性化と住民の助け合い、地域全体の絆を強めるための活動を進めていますが、特に高齢化が進み、高齢化社会での「人を大切に安心して暮らせる地域づくり」の大切さを痛感しています。

ボランティアを基本としたコミュニティづくりは大変厳しい部分があると思われませんが、お互い自分で出来ることを何らかの形で声かけ合い、地域に貢献する思いが大切と感じています。

多くの地域の人々と出会い、接し、声かけ合い、豊かな人間性を創造しながら、住んでよかったこの来原の郷を合い言葉にお互い頑張りましょう。

今年も来原コ連協に対し、積極的協力と参加、そして提案とご指導をお願いし、新年のご挨拶といたします。

「地域づくり皆様と共に」

塚本 近



来原地域の皆様におかれましては、ご家族お揃いで輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年の十一月の市議会議員選挙結果を踏まえ、新しい議会となり私も議員の責任の重さに身の引き締まる思いであり、もとより微力ではございますが全力で任を果たす所存であります。

今回、地域を訪れ声を聞く中で、集落が元気をなくし、地域の衰退が進む中、皆様の気持ち、痛みをしっかりと受け止め、きめ細かな支援が必要であると考えます。少子高齢化という最大の課題に直面する中で、多くの地域課題が生まれています。それぞれの課題解決に向けて、皆様と対話を重ね活力ある地域づくりを推進してまいります。

この一年が皆様にとってすばらしい年になりますよう祈念してご挨拶とします。

皆様の声を大切にしたい
まちづくり

秋田 雅朝



地域の皆様、新年おめでとうございます。

お健やかに新春をお迎えになられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

昨年は、皆様の「お心」を頂きまして、再度、市議会へ出させて頂きました。深く感謝致しております。初心にかえり、皆様のお声を「広く聴き、即行動」をモットーに、誠心誠意努力して参ります。なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

今、地方創生時代の中で、人口減少対策は喫緊の課題であり、これを克服して「未来に夢ある安芸高田市」を目指すには、「まちづくりに独自性が必要」と考えます。そのためにも、皆様の声を大切に、その声をしっかりと生かせる様、日々研鑽を積み「住み良いまちづくり」に努力致して参ります。

一層のチャレンジで
喜びあふれるまちに！

山根 温子



来原地域
のみなさま、
明けまして
おめでとう
ございます。

良き新春を迎えられたことと
お喜び申し上げます。

本年は酉年、酉(トリ)は「取
り込む」につながるといわれ、
運氣も取り込めるといわれてお
ります。しっかりと地域に元氣
を取り込んでまいりましょう。

さて私にとって、昨年是一年
を通して、「ふるさとを明日に向
かってつなげていきたい」との
思いからの大きなチャレンジの
年でした。

本年もみなさまのご期待に
しっかりと応えるよう、議会の
場から一層のチャレンジを続け、
喜びあふれるまちづくりに向け
て頑張つてまいります。今後と
もよろしくお願ひ申し上げます。
みなさまのご健康とご多幸を
心よりお祈り申し上げます。

敬老会



昔懐かしい「吹き戻し」！
楽しみながら
□腔機能訓練をしました。

去る十月九日、来原コ連協主催の敬老会に
は、二百七十五名の対象者の方々より百名に
ご参加を賜りました。当日は来賓の皆様は温
かいご祝辞を頂戴し、ご講演、アトラクショ
ン等でなごやかに過ごして頂くことが出来た
と思います。

この会を開くにあたり、前日からの準備や
当日の進行をして頂
いたコ連協のスタッ
フ、関係者の皆様には
心より御礼を申し上
げます。

私も微力ながら「敬
老会」に携わらせて頂
くことにより、改めて
人生の先輩方の永年
のご労苦に感謝をす
る一日となりました。



特殊詐欺被害防止川柳の優秀作品

舛岡 秀人さん表彰

●わすれまい こどもの声と 話し方(ぶり)

その電話の相手は、本当に自分の息子さんですか？
息子だと信じて、電話でお金のお話をしていませんか？
息子さんの声分からないわけがないと自信があっても、
声だけで本人だとは分かりません。



被害に遭わないために、日頃から家族の間で、『電話でお金のお話はしない。』などの決め事をつくったり、合言葉を決めておくなどの防犯行動を取りましょう。

○電話でお金のお話は詐欺！ ○即断せずにまず相談！

安芸高田警察署 ☎0826-47-0110



くるはら児童クラブ



児童クラブの友達は
これからも大切な友達です

人子育て応援隊「かんがるー」が、市からの委託を受けて運営しています。市内全域の職員が協力し、保護者の皆さんにも安心していただける場所づくりに取り組んでいます。

小学校が下校になると、バタバタと足音がして、大きな声で「ただいま帰りました!!」
一〜六年生、二十数名が、毎日のようにやっています。
おやつを食べて、宿題をして、部屋で遊びながら保護者の迎えを待つのが日課。大騒ぎをしたりケンカをしたり、涙が出ることもあるけれど、他の学年の子とも気軽に遊ぶことができ、小さな集団の中でも、楽しみながら学ぶことは多いと思います。ちなみに、最近は将棋が人気で、一年生も、同級生・上級生と対局しています。
現在、安芸高田市内の児童クラブ十一施設は、NPO法人



将棋で勝負だ!!

こども報恩講



き入る子どもたちの様子に、大人も一緒に絵本の世界に入ったようでした。



十一月二十七日(日)午前十時三十分より、正明寺において、こども報恩講のお勤めと法座がありました。
ご講師は「絵本のお坊さん」として親しまれている三次市源光寺 福間玄猷住職(本願寺派布教師)による、絵本の読み語りを中心とした法座でした。
当日は、子どもたちと保護者約四十名の方々にお参り頂きました。

と緊張している様子でしたが、その後のジャンケンをして列を作っていくゲームや新聞紙を破らないように手で裂いて長くくするゲーム、大人も子どもも一緒に楽しんでました。
身体を使ったゲームの後は、絵本の読み語りです。
今回の絵本は「おかげさま」。静かに聴



絵本のお坊さんの読み語り、
心に響くおかげさま!!

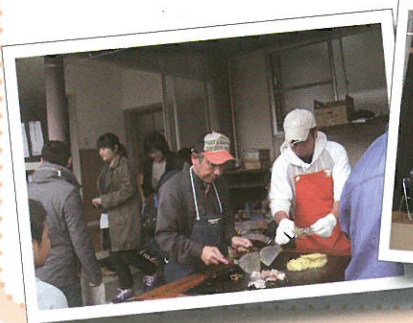
来女木客祭り

11月23日午前11時より、第28回来女木客祭りが来女木公民館で開催されました。

ステージでは前半に、大正琴のバラ組やひなげし会、子ども会、女性部、老人会、ふれあいサロンの発表、そして来原小学校児童の吹奏楽、紅 好二さんの踊りと続き、祭りに華を添えました。後半は、来女木神楽団や子ども神楽同好会による華やかな舞が披露されました。

フロアでは、農産物品評会が行われ、表彰や競売もありました。駐車場では、ひまわり会のバザーがあり、たこ焼きやから揚げ、焼きそば、うどんと軒を連ね、お昼の時間には買い求める人の列ができていました。

天候にも恵まれ、多くの皆様のお力添えをいただき、にぎやかな祭りとなりました。



寒さのなか、たくさんの人々…



十一月二十二日、「原田神楽団 太刀納め・原田客まつり」が来原小学校体育館で開催されました。伝統ある原田神楽団の舞に皆さん酔いしれておられました。原田カラスでは屋外でバザーを開きました。前日の準備・食材の仕込み。当日の販売と大変でしたが、盛沢山のメニューの中でもうどん・おでんを楽しみに来られるお客さんもおられ、私たちも楽しみながら販売しました。これからも楽しみながら地域を盛り上げていきたいと思えます。



男の腕前・味付けは チームワークで天下一品

原田神楽団太刀納め・原田客まつり

魅 せ る !

来 原 魂 !!

来原小学校では、「来原魂」を磨くべく、「伸・進・心」をキーワードに行事や授業の中で、日々「努力」を続けています。その中の一つが、昨年度から重点的に取り組んでいるマラソン、駅伝です。

十月に入ると、今年で第四回を迎える「川村毅杯安芸高田市小学校駅伝競走大会」での上位入賞を目指して練習に取り組み始め、自分のタイムを一秒でも縮めようとひたすら走り、本番に挑みました。

そして、運命の十一月二十六日。結果は、見事三位入賞!!(タイムは二十八分十三秒)。この記録は、第一回大会の優勝記録を上回り、第二回大会の優勝記録と同タイムです。もっと調べてみると、なんと歴代四位タイの記録で、個人の記録もベストタイムが続出しました。

選手以外の全児童の想いを横断幕に載せ、来原小学校の児童全員が「自分の力を伸ばす 仲間と共に進む 伸び、成長を認め合う(心)」という来原魂を、この駅伝大会でたくさんたくさん魅せてくれました。

現在は、そんな来原っ子のよいところや頑張ったことなど、日常的にキラリと光る素敵な姿を見つけた時、カードにメッセージを添えて『キラリ賞』を渡す取り組みをしています。

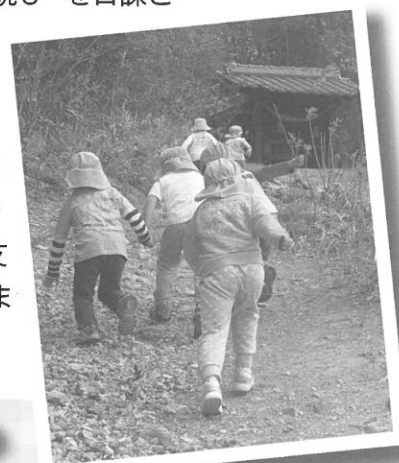
一人一人が持っている『キラリ★ノート』に貼っていくことで、自分には素敵な姿がたくさんあるということを実感できています。日々キラリが増えていくことを全員で喜び合える温かい雰囲気も広がっています。この温かさが来原小学校にもっともつと溢れるように、今後も取組みを進め、来原魂を輝かせていきます。



くるはら保育園では、園の裏山の神社までを1歳児～5歳児までの子どもたちが年間を通して山の上下りし、身体づくりをしています。3歳から5歳までの子どもたちは、走って神社を目指します。早く上った子は、途中の友だちを励ましたり、迎えに行き手を引いて応援しています。最初、よく転んでいた子どもたちも足の運びが上手になってきました。1、2歳の子どもたちは、虫や木の実の発見を楽しみながら、頑張って歩いて上り、神社までの散歩を季節や気候に応じて楽しんで

ています。また、3歳以上児は“雑巾ダッシュ”という廊下の拭き掃除と“縄跳び”を日課としています。こうした取り組みを始めて3年目になりました。しっかりした足腰を作り、思い切り遊べる体になることで、いろんなことに挑戦しようとする意欲を育てていきたいと思っています。

神社への草刈りや木の伐採などの整備や、なかよし会の皆さんの様々な行事へのご協力での子どもたちに文化の伝承、豊かな経験をさせていただくことができいております。地域の皆様の多大なるご支援、ご協力のおかげと感謝しております。ありがとうございます。また、今後ともよろしく願いいたします。



ありがとうございます!

年神様を迎える門松作り

十二月二十日(火)午前八時半、門松作りの材料を乗せた軽トラが続々と集まって来ました。「湯の森」において門松作りが始まりました。

七年前、湯の森から門松作りの要請を、来原老人会が受けて以来、毎年この時期、来原内の公共施設五か所に門松を作製し設置されています。

前日、町老連で十九か所分百十四本の竹を船佐老人会の方と一緒に切り出し、丸鋸で切り落とし、鉋をかけ、他の材料とともに準備をしておいたということでした。

今日も十二名の方が作業をされました。缶の中に竹を入れ、土を入れ、後ろに松を配置し、缶の周囲に竹を巡らし荒縄でしめて、紅白の葉ボタン、梅の枝、南天の枝、杉の葉で飾り、最後に注連縄を付けて約一時間で完成しました。

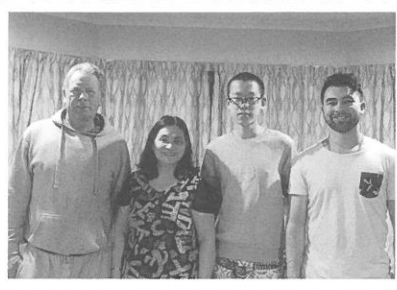


竹の向き、松の長さ、枝の調整、飾り物の位置に指示や応答などの声を掛け合いながら、力強く活気ある作業でした。この後、一日をかけて保育所・小学校・郵便局・高美園を回り、門松を設置されました。ありがとうございます。

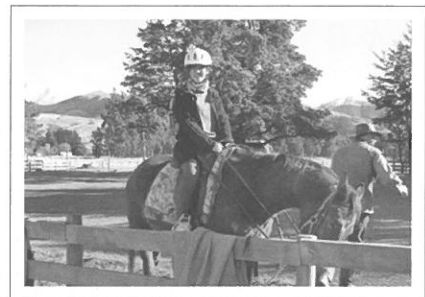


NZ 体験記

平成28年度の安芸高田市青少年海外派遣事業では、安芸高田市内の中学生20名(女子11名、男子9名)が友繁団長・竹野副団長と共に、8月12日~22日の11日間の日程で、ニュージーランドを訪問しました。12日の夜に貸切バスで市役所を出発し、翌日福岡空港からシンガポール・チャンギ国際空港を経由して、ニュージーランド・クライストチャーチ国際空港に到着しました。片道20数時間のなかで、昨今の国際情勢のなか、チャンギ国際空港での長い待ち時間(行き4時間20分、帰り7時間40分)での生徒の安全に一番苦労しました。来原地域からは2名の中学生が参加しました。



高宮中学校3年 出張 碧人くん



高宮中学校2年 川森 心愛さん

第28回 安芸高田市たかみや人権文芸賞

来原地域からの入選作品の紹介

《安芸高田市議会議長賞》

東京で思ったこと

来原小学校6年生 桑岡 孝輔さん

《世界人権宣言高宮実行委員会委員長賞》

「助けてよ」きづかないふりもうやめよ

高宮中学校1年生 菅原 可葉さん

《入選》

いじめると自分の心をだめにする

高宮中学校1年生 寺尾 綾馬さん

ぼくのかなへび

来原小学校1年生 上野 颯斗さん

かたつむり

来原小学校1年生 加古山 莉彩さん

がんばった夏休み

来原小学校3年生 山田 侑依さん

「きな粉見習い警察犬」を読んで

来原小学校6年生 本多 真麻さん

『くるはら』の神社めぐり(巻)

宮地山神社

祭神 大山咋神
例祭 十月第一日曜日(旧例祭十月三日)
安芸高田市重要文化財 絵馬「猿駒曳図」「神馬図」
安芸高田市有形民俗文化財「日吉神社の幟」



嘉永五(一八五二)年奉納の絵馬二面はいずれも古仙斎こせんさいの作である。「猿駒曳図」の猿は、馬の守護神として絵馬によく描かれている画題である。

鮮やかな図で古仙斎の画風をよく伝えている。佐々木古仙斎(一七九四〜一八七〇)は、山県郡大暮村(現安芸太田町出身、同郡や、安芸高田市美土里町・高宮町に多くの作品を残している。安政四(一八五七)年奉納の「幟」一流は、麻と綿の混紡織、白地中央に「奉寄進御廣前」、下部に赤色で「ぼたん」を、その下方に「唐獅子」を、青・茶・黒で染め抜いている。この神社を地元では、「日吉神社」「山王社」

と呼んでいる。大津市坂本の「日吉神社」を総本社とし、日吉系の神社では、市内で最も大きい。文政八(一八二五)年編修の『芸藩通志』に「山王社、来女木村、宮地山にあり、昔は、原田、房後、羽佐竹、佐々部、川根、北、当村を合わせて七村の民これ祭りしが、その後各村に分ち、勧請すと云々」とある。参道の両側にそびえる老杉、境内には、マツ・カシ・モミ等の巨樹も多く、社叢としても見事な景観である。

平成二十七年三月

安芸高田市教育委員会
(境内案内板による)



☆コ連協等行事予定

- 1月8日 安芸高田市消防出初式
- 1月29日 第17回新春高宮子ども神楽発表大会
- 2月19日 安芸高田市民フォーラム
- 3月10日 高宮卒業式
- 3月22日 来原小卒業式
- 3月24日 くるはら保育園卒園式
- 3月26日 くるはらミニ二駅伝競走大会
- 4月5日 くるはら保育園入園式
- 4月6日 来原小入学式
- 4月7日 高宮中入学式

コ連協への篤志寄付に

御礼申し上げます
故・沖野 清様(来女木、96歳)ご遺族

編集後記

明けておめでと〜ございます。皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。第52号広報紙「くるはら」は、いかがでしたか。各種団体の活動報告では地域を盛り上げておられるなと思えました。今回は新たに地元にあるお宮の紹介をしてみました。調べてみると私も知らないお宮もありました。次号でも紹介していきたいと思っております。コ連協広報部では、皆様からのご意見や色々な情報、記事や写真の投稿をお待ちしております。